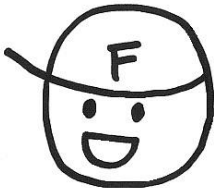


# ようすい 府中の用水



にかそんりよくどう  
<ニケ村 緑道>

『こども府中はかせ13』では<sup>のうぎょう</sup>農業<sup>と</sup>について取りあげたね。  
<sup>こんかい</sup>今回は<sup>のうぎょう</sup>農業<sup>かんけい</sup>に<sup>ふか</sup>関係<sup>ようすい</sup>が深い「用水」だよ。



# 「用水」って何？

用水とは、人の手によって川などから水を引いてきて、生活や

消火などのために使う水のことをいいます。私たちが用水とい

うとき、農産物を育てるために水田や畑で使われる農業用水を

指すことが多いです。そして、農業用水の多くが水田の灌漑（\*1）

に使われています。

（\*1）灌漑  
作物を育てるために必要な水を、水田や畑に供給すること。特に水田の稲作は大量の水を必要とし、水路を掘って川や池から水を引く。日本の灌漑は稲作技術の伝来とともに広まり、ため池や用水路が作られていった。

東京都にも農業用水はたくさんあります。農業を行う時に水は欠かすことができないため、かつて

水を巡った争いが起こるほどでした。そのため、水路は農地と農地の間に張り巡らされて、水はそれ

ぞれの農地に同じように届けられるようになっていました。この水路を農業用水路といいます。小川の

ように町の中を流れて、農地まで水が送られていました。現在

では用水路の多くは暗渠（\*2）になっています。

（\*2）暗渠  
ふたがしてある用水路や排水溝のこと。

むかしは農家が協力して用水の管理を行っていました。水路のゴミや汚れをとって流れを良くしたり、

補修工事を行ったりしていました。また、誰かが自分の田畑だけに水を引いたりしないようにもし

ていました。現在、農地は少なくなってきましたが、きれいな用水を保つため府中市では農家などに協

力をしてもらいながら、市が今も定期的に清掃などを行っています。

## たまがわじょうすい 玉川上水

玉川上水は、江戸時代前期に、玉川兄弟によって開通した江戸の上水道です。

羽村の取水口（\*3）で多摩川から水を引き入れて、

江戸まで水を送っていました。農業や飲み水、

火を消すためなど、複数の使い方をするために

作られました。

（\*3）取水口  
河川などから水を上水道や農業用水路などに引き込む所やその設備のこと。水の取り入れ口。

# のうぎょうようすい 府中の「農業用水」

## のうぎょうようすい かんり うんえい 〈農業用水の管理・運営〉

むかし、府中市内を流れていた用水は、多摩川に沿うように流れていました。用水は色々な所で分かれ、水路は主にハケ（\*4）下に広がっていました。用水やそれを管理する

る団体がいつ作られたのかははっきりとは分かっていませんが、江戸時代

に5つの用水が市内を流れていたようです。当時、灌漑面積（\*5）が

一番広がった用水は①七ヶ村用水で、現在の「府中用水」のことで

「七ヶ村」は、府中三宿（本町・番場宿・新宿）、是政村、上谷保村、下谷保村、青柳村を指します。

市内西側の村々が主に利用していたのは、②本宿用水と③四谷村外二ヶ村用水です。本宿用水は本宿村

が主に利用していました。四谷村外二ヶ村用水の「外二ヶ村」は中河原村と下河原村のことで

市内東側の村々が主に利用していたのは、④三ヶ村用水と⑤二ヶ村用水です。三ヶ村用水の「三ヶ村」は上染屋

村、下染屋村、小田分村のことで

また、二ヶ村用水の「二ヶ村」は常久村と押立村を指します。

各用水を利用して村々は組合を作って、用水の管理を協力して行っていました。これらの組合

は名前を変えていきましたが、明治時代以降も用水の管理を続けます。七ヶ村用水は明治26（1893）

年に府中町外三ヶ村用水（西府村の一部と府中町、多磨村、谷保村）と呼ばれるようになりますが、この

用水を管理している組合の名称は七ヶ村用水組合のままです。その後、大正6（1917）年に七ヶ村用水組合は府中町外三ヶ村普通水利（\*6）組合となって

、府中町外三ヶ村用水を管理するようになりました。

昭和時代になって多摩川を取水源としたダムが作られるようになると、多摩川の水量は減り、水を引

くことが難しい用水路も出てきました。また、市内の人口と住宅が年々増えるにつれ、水田は減って

きました。これらのことが影響して本宿用水と四谷用水は合併して西府用水になっています。

### （\*4）ハケ

むさしのちいき たまがわ  
武蔵野地域では、多摩川によって  
けず たか やく  
削られてできた高さ約5～7  
メートルほどの崖のことを指す。

### （\*5）灌漑面積

かんがいめんせき  
のうぎょうようすい りょう のうち めんせき  
用水を利用した農地の面積。

### （\*6）水利

いんりょうすい ようすい みず りょう  
飲料水や用水などに、水を利用すること。

しょうわ とち かいりょう ほう こうふ ふちゅうまち  
昭和24（1949）年に「土地改良（\*7）法」が公布されると府中町

とち かいりょう  
（\*7）土地改良  
のうち りょう  
農地を利用しやすくするため、  
つち かいりょう ようすいしせつ のうどう  
土の改良や、用水施設・農道  
せいび おこな  
の整備などを行うこと。

ほかさん か そん ふ つうすいりくみあい そしき へんこう しょうわ  
外三ヶ村普通水利組合は組織が変更されます。そして昭和27（1952）

ふちゅうようすいと ち かいりょうく かんり  
年に府中用水土地改良区になって府中用水を管理するようになります

しょうわ かんり にし ふ むらようすいくみあい き つく  
た。昭和26（1951）年には、本宿用水と四谷用水を管理する西府村用水組合の決まりが作られていま

す。その後、しょうわ さんか そんようすい かんり さんか そんようすいくみあい たまとち かいりょうく  
昭和28（1953）年に三ヶ村用水を管理していた三ヶ村用水組合が多磨土地改良区になり

りました。しょうわ しな い ようすいくみあい たい しょうわ ほしよきん こうふ じてん  
府中市は市内の用水組合に対して昭和36（1961）年に補助金を交付しています。この時点

しな い しょうわ さんか そんようすい に か そんようすい これまさようすい ようすい  
で市内には、府中用水、西府用水、三ヶ村用水、二ヶ村用水、是政用水の5つの用水があったようです。

しょうわ ふちゅうようすいと ち かいりょうく がわ かんり  
昭和37（1962）年になると、府中用水土地改良区として「府中市側の府中用水」を管理していた

ふちゅう しょうすい いんかい ふちゅう しょうすいくみあい なまえ かつどう かいし しょうわ  
府中市用水委員会は、府中市用水組合の名前で活動を開始します。昭和40（1965）年からしばらく

あいだ とち かいりょうく くにたちまちがわ かんり ふちゅう しょうすいくみあい がわ  
の間、府中用水土地改良区は「国立町側の府中用水」を管理し、府中市用水組合は「府中市側の府中

かんり へいせい とち かいりょうく ふただ いっほんか  
用水」を管理していましたが、平成12（2000）年に府中用水土地改良区として再び一本化しました。

しょうわ ごろ ふちゅうし にし ふ ようすいくみあい ふちゅうし に か そんようすいくみあい ふちゅうし これまさようすい  
また、昭和50（1975）年頃には、府中市西府用水組合、府中市二ヶ村用水組合、府中市是政用水

くみあい なまえ か わ さんか そんようすい かんり たまとち かいりょうく しょうわ  
組合に名前を変えていたことが分かっています。三ヶ村用水を管理していた多磨土地改良区は、昭和

ふちゅうし たまようすいくみあい かんり おこな  
55（1980）年には府中市多磨用水組合として管理を行うようになります。

え どじだい ふ かんがいめんせき たいしょう しょうわ へいせい へ しょうわ  
江戸時代から増えていた灌漑面積は、大正、昭和、平成とだんだんと減っていききました。昭和50

くら へいせい ごろ しな いかんがいめんせき やく ぶん  
（1975）年に比べて、平成8（1996）年頃の市内灌漑面積は約4分の1になっています。また、それ

しな い いなさくのうか かす へ げんいん へいせい  
とともに市内の稲作農家の数も減っていきます。これらのことも原因となって、平成23（2011）年に

これまさようすいくみあい へいせい ごろ に か そんようすいくみあい かいさん  
是政用水組合が、平成29（2017）年頃には二ヶ村用水組合が解散したようです。

げんざい ふちゅう しょうすいくみあい にし ふ ようすいくみあい たまようすいくみあい くみあい ようすい かんり うんえい  
現在では府中市用水組合、西府用水組合、多磨用水組合の3つの組合がそれぞれの用水を管理、運営

かんがいめんせき いちばんひろ ちょうさ やく  
しています。灌漑面積としては西府用水が一番広く、令和2（2020）年の調査によると府中用水の約

ばい ひろ  
2倍の広さです。

## せんご のうぎょうようすい ＜戦後の農業用水＞

だいにじせかいだいせん お あと しょうわ ごろ しょくりょうぶそく おぎな こめ つく  
第二次世界大戦が終わった後の昭和20（1945）年頃、食糧不足を補うために米をたくさん作る  
ようになっただけ、市内には多くの水田がありました。昭和40年代になると、新しい技術の発  
めい こめ たいりょうせいさん か のう しゅしょく くわ こめ あま  
明などにより米の大量生産が可能になったことや、主食としてパンが加わったことなどにより米が余  
るようになりました。この対策として、昭和44（1969）年に米の生産調整が始まります。このこと  
により、米の生産を減らす農家や、米以外の作物を作る農家が増え、また、農地の宅地化なども進み、水  
でん げんしょう えいきょう ようすいろ りょう へ げんざい ようすいろ  
田は減少していきます。そして、その影響もあって用水路の利用も減っていきました。現在では用水路  
のほとんどが暗渠になっていて、以前のような様子は一部でしか見ることはできません。しかし、暗渠に  
なった用水路は緑道や遊歩道になったり、用水路にかかっていた「橋」の由来碑が建てられたりしてい  
て、当時の用水の流路を知ることができます。

### せいさんちようせい 生産調整

せいさんちようせい しょうひん ねさ ぶせ せいさんりょう へ  
生産調整とは、商品の値下がりなどを防ぐため、生産量を減らすことです。

のうさんぶつ ばあい さくもつ う めんせき へ ほか さくもつ か  
農産物の場合は作物を植える面積を減らしたり、他の作物に変えたりします。

こめ しょうわ せいさんりょう ぶ やく ねんかん ばいちか しゅうかく  
米は昭和20（1945）年から生産量を増やし、約20年間で3倍近くまで収穫

りょう ぶ じょじょ あま しょうわ せいさんちようせい  
量を増やしましたが徐々に余るようになり、昭和44（1969）年から生産調整

げんだんせいさく はじ せいさく へいせい しゅうりょう のうか  
（減反政策）が始まりました。この政策は平成30（2018）年に終了し、農家は

じしゅてき ほんだん こめ つく  
自主的な判断で米を作ることができるようになりました。



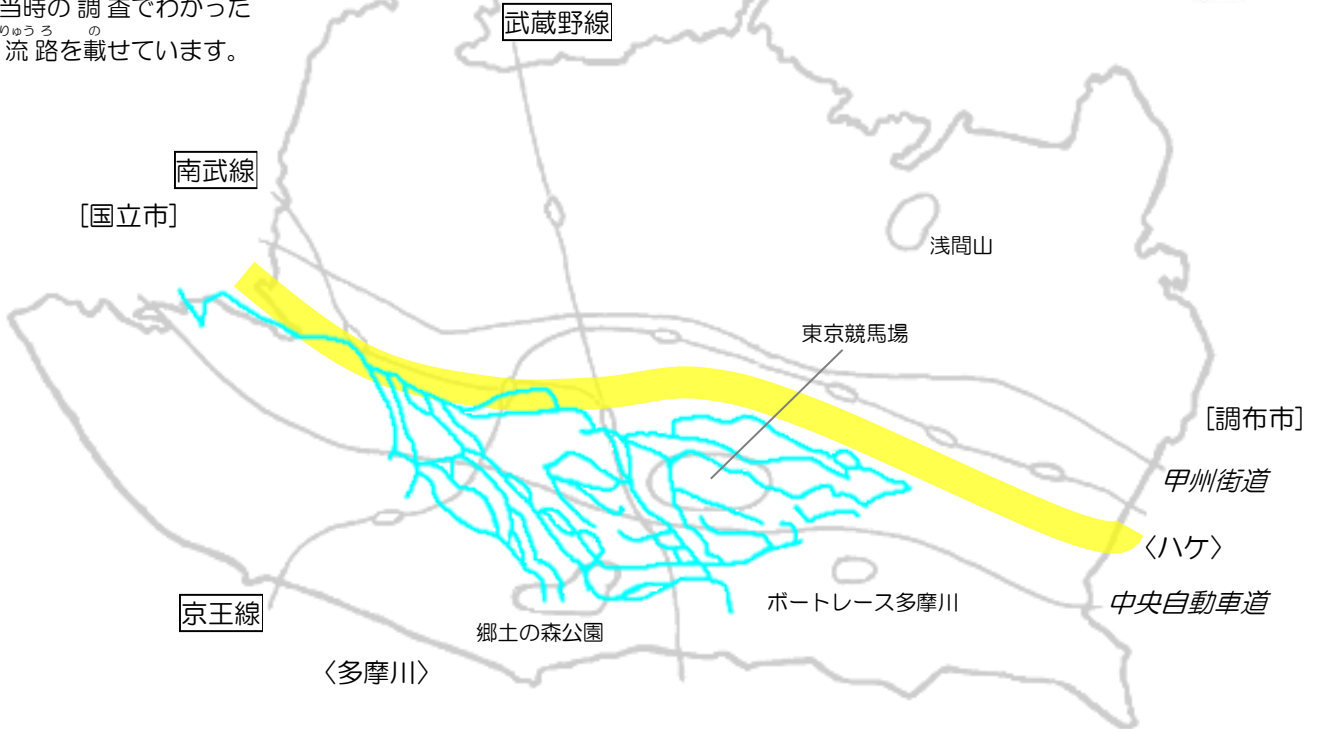
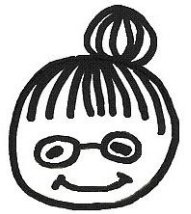
ほんまち なが しょうわ ごろ  
本町を流れていた昭和29（1954）年頃の  
府中用水の一流路（現在は第二都市遊歩道）  
みぎおく たてもの どうじ ぶ ちゅうほんまちえき  
右奥の建物は当時の府中本町駅



しょうわ ねんだい  
昭和50年代の  
ふ ちゅうようすい  
府中用水

とうじ ちようき  
※当時の調査でわかった  
りゅうろ の  
流路を載せています。

ようすいろ はし  
むかしは用水路にかかっていた橋を  
つか ひとびと い き  
使って、人々が行き来していました。



さんこうしりょう ふ ちゅうし ないきゅうめいちょうさほうこくしょ みち さか つか かわ せき はし なまえ  
参考資料：『府中市内旧名調査報告書 道・坂・塚・川・堰・橋の名前』

ふ ちゅうようすい はし  
府中用水に“かかっていた”橋

さかしたばし 坂下橋	(日新町一丁目)	府中用水の一流路
しみずさかばし 清水坂橋	(本宿町一丁目)	府中用水
こうみょうばし 光明橋	(分梅町一丁目)	府中用水
ぶんりょうばし 分量橋	(分梅町一丁目)	府中用水の一流路
ぎょうにんまえばし 行人前橋	(分梅町三丁目)	府中用水の一流路
なかがわばし 中川橋	(分梅町三丁目)	府中用水の一流路
たかくらばし 高倉橋	(片町三丁目)	府中用水
けいせつばし 蛭雪橋	(片町三丁目)	府中用水
いちかわばし 市川橋	(本町二丁目)	府中用水
せいげつばし 清月橋	(本町三丁目)	府中用水
てんじんばし 天神橋	(宮町三丁目)	府中用水の支流
ごくらくばし 極楽橋	(是政三丁目)	府中用水
かねづかばし 金塚橋	(是政六丁目)	府中用水の一流路



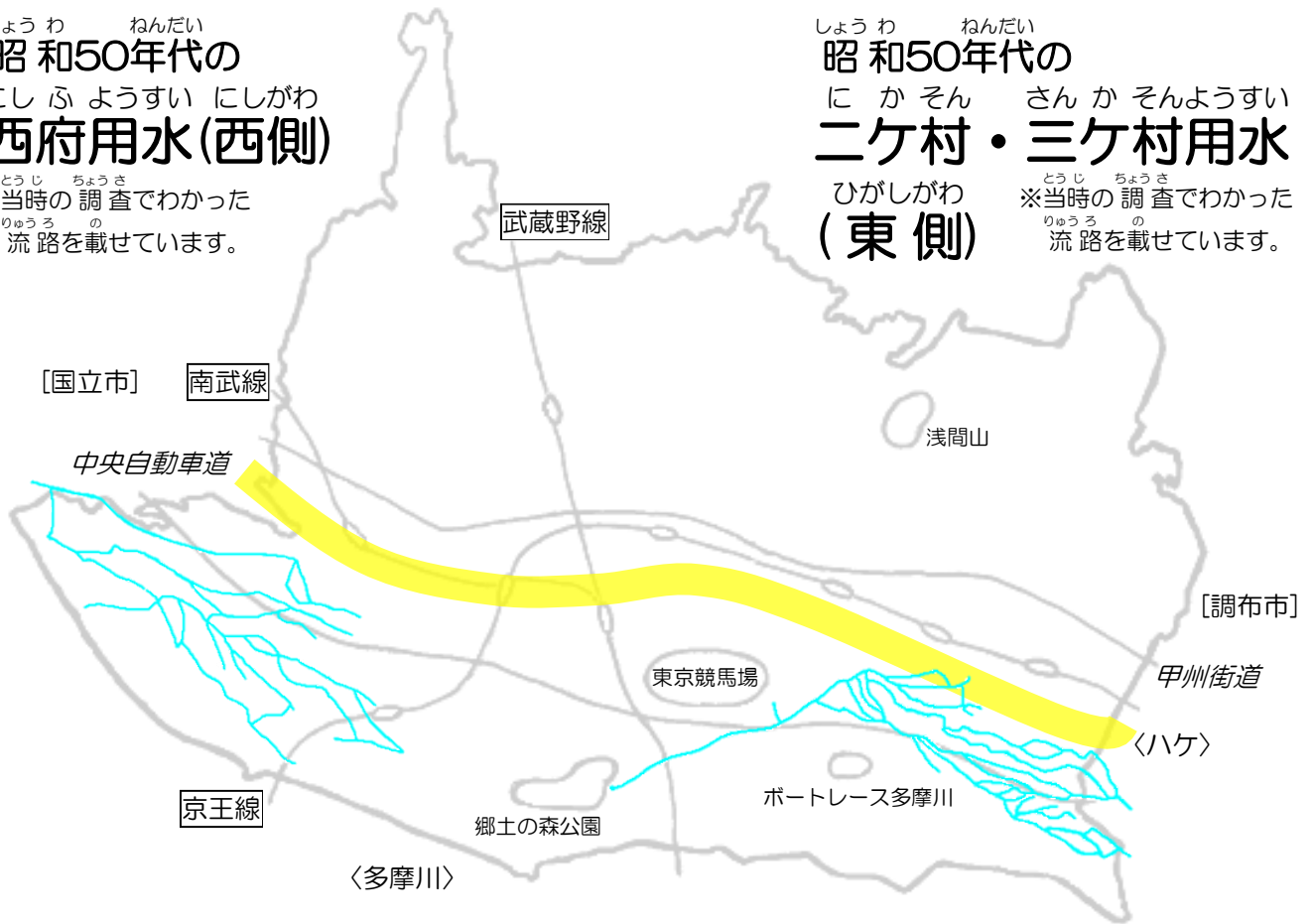
だいしやう ころ  
大正11(1922)年頃の  
こうみょうばしあた  
光明橋辺りの府中用水

しょうわ ねんだい  
昭和50年代の  
にし ふ ようすい にしがわ  
西府用水(西側)

※当時の調査でわかった  
りゅうろの  
流路を載せています。

しょうわ ねんだい  
昭和50年代の  
にかそん さんか そんようすい  
二ヶ村・三ヶ村用水  
ひがしがわ  
(東側)

※当時の調査でわかった  
りゅうろの  
流路を載せています。



さんこうしりょう ちゅうし ないきゅうめいちようさほうこくしよ みち さか つか かわ せき はし なまえ  
参考資料：『府中市内旧名調査報告書 道・坂・塚・川・堰・橋の名前』

にし ふ ようすい はし  
西府用水に“かかっていた”橋

- うめそのばし 梅園橋
- ひ みばし 火の見橋
- かみざかばし 上坂橋
- ごんげんばし 権現橋
- ほうらいばし 蓬来橋
- こうしんばし 庚申橋

- (四谷三丁目) 四谷村外二ヶ村用水の一流路
- (四谷二丁目) 四谷村外二ヶ村用水の一流路
- (西府町一丁目) 府中用水・四谷村外二ヶ村用水
- (住吉町三丁目) 四谷村外二ヶ村用水の一流路
- (住吉町三丁目) 四谷村外二ヶ村用水の一流路
- (住吉町三丁目) 四谷村外二ヶ村用水の支流



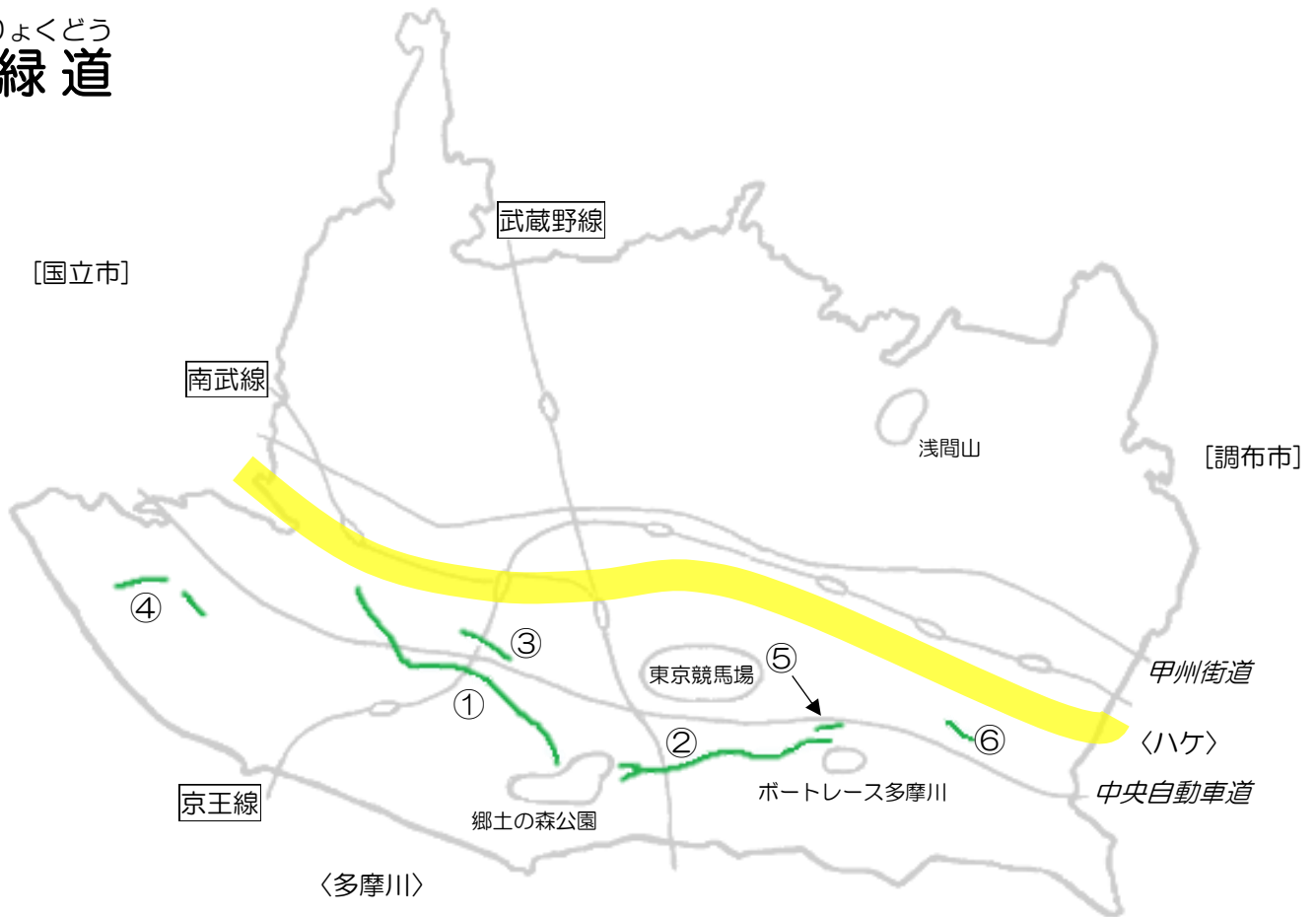
ごんげんばし ひ  
＜権現橋の碑＞

にかそん さんか そんようすい はし  
二ヶ村・三ヶ村用水に“かかっていた”橋

- かめさとばし 亀里橋
- ひがしばし 東橋

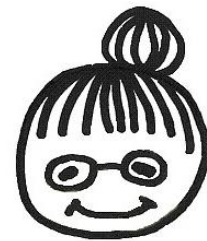
- (是政五丁目) 二ヶ村用水・三ヶ村用水
- (押立町四丁目) 二ヶ村用水

りょくどう  
緑道



参考資料：『緑の散歩みち Walking Guidemap【1990年版】緑のネットワーク』

げんざい ようすいろ だいぶ ぶん あんきょ  
現在、用水路の大部分は暗渠になっていて、  
りょくどう ゆうほ どう せいび  
緑道や遊歩道として整備されています。



- ① **新田川緑道** しんでんがわりりょくどう  
日新町郵便局から府中市郷土の森公園までの緑道。府中30景に選ばれたしょうぶ池がある。  
にっしんちょうゆうびんきょく きょうと もりこうえん りょくどう けい えら
- ② **二ヶ村緑道** にかそんりょくどう  
府中市立総合体育館の東側からポートレース多摩川の北側までの緑道。  
しりつそうごうたいいくかん ひがしがわ たまがわ きたがわ りょくどう
- ③ **雑田堀緑道** ぞうだほりりょくどう  
いきいきプラザ西側にあった分量橋から中央自動車道側道までの緑道。  
にしがわ ぶんりょうばし ちゅうおうじどうしゃどうそくどう りょくどう
- ④ **四谷緑道** よつやりょくどう  
四谷の住宅街を通り抜ける緑道。  
よつや じゅうたくがい とおぬ りょくどう
- ⑤ **是政緑道** これまさりょくどう  
ポートレース多摩川の北側で二ヶ村緑道から分岐する緑道。  
たまがわ きたがわ にかそんりょくどう ぶんき りょくどう
- ⑥ **三御殿堀緑道** さんごでんぼりりょくどう  
三ヶ村用水の一部を利用している緑道。  
さんかそんようすい ぶ りょう りょくどう



# ゆうほどう 遊歩道



参考資料：『緑の散歩みち Walking Guidemap【1990年版】緑のネットワーク』



りょくどう ゆうほどう なに  
緑道？遊歩道？何がちがうの？

りょくどう こうえん ゆうほどう つうろ りょう みち  
緑道は公園、遊歩道は通路として利用できるようにした道じゃが、  
じつちすじょう すいろ  
実は地図上では水路としてかけられることもあるのじゃ。



## ① 第一都市遊歩道

とうきょうけいばじょう きたがわ とうごうじとお みち  
東京競馬場の北側から東郷寺通りまでの道。

## ② 第二都市遊歩道

みなみがわあた なんぶせんそ とお ちゅうおうしどうしゃどうそくどう みち  
五小の南側辺りからJR南武線沿いを通り、中央自動車道側道までの道。

## ③ 第三都市遊歩道

にしふりょくち きたがわ とお きょうど もりこうえん みち  
西府緑地から住吉小の北側を通り、府中市郷土の森公園までの道。

## ④ 小柳散歩道

たまがわ ひがしがわ こやなぎちょうだい こうえん すいぼう ぼうさい  
ボートレース多摩川の東側から小柳町第3公園、府中市水防・防災  
ステーションまでの道。

## ⑤ 三ヶ村遊歩道

たまがわりょくち とうごうじとお みち  
多摩川緑地から東郷寺通りまでの道。

## ⑥ 四谷4・5丁目遊歩道

よつや ちゅうざいしよまえこうさてん ひがしがわ やえんかいどう こ さき みち  
「四谷駐在所前交差点」の東側から野猿街道を越えた先までの道。

# え と ば く ふ つ く 江戸幕府が作った「府中用水」

府中用水は、一部の湧き水のほかは多摩川から水を引いている約6キロメートルの農業用水です。国

立市と府中市の田畑を通して、再び多摩川へ戻ります。いつ作られたかはっきりと分かっていませんが、

元禄6（1693）年に江戸幕府が完成させたといわれています。府中市の周辺では、むかしから米の生

産が盛んでした。稲作にとって水は欠かせない大切なものであり、上流の谷保付近と下流の府中では、

度々「水争い」も起きたほどです。毎年、多摩川から安定した水量を確保するため、明治33（1900）

年頃、青柳（国立市）に取水門が設置されました。この取水門は多摩川流域では最も大きく、最も古

いものといわれています。現在の取水口は全体がコンクリート製です。毎年5月中旬頃に水門が開か

れ、9月下旬頃には閉じられます。平成18（2006）

年2月に農林水産省が認定した「**疎水（\*8）百選**」

に、東京都で唯一選ばれています。

（\*8）**疎水**  
かんがい きゅうすい ゆそう とち き ひら  
灌漑や給水、輸送などのために土地を切り開いたり、  
トンネルを掘ったりして作った水路。疎水とも書く。

## せいぶつ しょくぶつ かんきょう 府中用水の生物・植物・環境

昭和20（1945）年頃まで多摩地域でも有数の水田地帯であった府中にとって、用水は農家の生活に

欠かせないものでした。取水口は春の彼岸に開かれていました。用水はハゲ下の湧水（\*9）も一緒になり、

水量も豊かになります。農業用水路の早瀬（\*10）には、フナ

やハヤに交じってアユやウナギの姿も見られました。夏を迎

える頃には無数のホタルの姿が見られ、子どもたちはドジョ

ウ取りを楽しみました。秋の水田はたわわに実った黄金色の稲穂が広がり、イナゴの姿も見られます。

秋の彼岸に取水口が閉められると、堀さらいが始まります。水がなくなってくると、フナやハヤを手づか

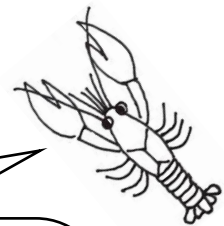
みでとることもできました。

（\*9）**湧水**  
ちか わ で みず わ みず  
地下から湧いて出る水。湧き水ともいう。  
（\*10）**早瀬**  
かわ あさ みず なが はや  
川が浅くて、水の流れが速いところ。

しょうわ ころ ようすいろ しぜんゆた みす べ ふうけい たの とうじ すいめん  
 昭和55（1980）年頃、用水路では自然豊かな水辺の風景を楽しむことができました。当時、水面を  
 のぞきこむと、ヒルムシロ、セキシウモ、ヤナギモ、コカナダモなどの水草が多く見られました。また、  
 ギンブナをはじめオイカワ、モツゴといった小魚も数多くいました。アメリカザリガニは用水路を棲み  
 か げんざい み ようちゆう みす なが とど  
 処としており、現在も見ることができます。アキアカネやシオカラトンボの幼虫のヤゴは水の流れが留  
 まる辺りにいました。底に沈んだ落ち葉のまわりには、チョウバエやハナアブ、赤いユスリカの幼虫が、  
 また、川岸の草陰には巻貝の一種のサカマキガイも多く見られたといえます。

へいせい ねん ど へいせい ねん ど のうりんすいさんしょう かんきょうしょう れんけい とない のう  
 平成13（2001）年度から平成30（2018）年度まで、農林水産省と環境省が連携して都内の農  
 ぎょうようすいろ たいしょう た い ちょうさ おこな ようすい かんきょう へんか ようすいろ い  
 業用水路を対象に「田んぼの生きもの調査」を行いました。用水の環境が変化し、用水路に生きる  
 せいぶつ すく へいせい ねん ど いま み  
 生物たちも少なくなってきましたが、平成23（2011）年度には、今まで見られなかったゲンゴロウも  
 はっけん せく  
 発見されています。ほかにもオイカワ、ドジョウ、カワムツ、カワニナ、ヌマエビ属、アメリカザリガニ  
 などの様々な種類の生物が確認されています。

へいせい とうきょう と かんきょうこうしゃ すいせいしよくぶつ ちょうさ おこな ちょうさ  
 平成27（2015）年には、東京都環境公社が水生植物の調査を行いました。この調査によると  
 府中用水で見ることのできたヒルムシロ、セキシウモなどは姿を消しましたが、希少種のホザキノ  
 フサモ、ササバモ、ナガエミクリなどは減少しながらも確認されています。また、オオカワヂシャ、オ  
 オフサモ、キシウブなどの外来種も多く確認されています。



アメリカザリガニ

しょうわ いっしょ にほん  
 昭和2（1927）年にウシガエルと一緒にアメリカから日本にやってきたんだ。  
 ぜんこく ひろ がっこう いえ いろいろ ところ か しぜんかんきょう ほか  
 全国に広がって、学校や家など色々な所で飼われたよ。でも、自然環境や他の  
 せいぶつ えいきょう あた か ほく はな  
 生物に影響を与えるから、飼えなくなっても僕のはなは放さないでね。

かんきょうしょう  
**環境省ホームページ**  
 しぜんかんきょう せいぶつ た ようせい にほん がいらいしゆたいさく がいらいしゆもんたい かんが ちゅうもく がいらいしゆ  
 自然環境・生物多様性＞日本の外来種対策＞外来種問題を考える＞注目の外来種＞2023年  
 6月1日よりアカミミガメ・アメリカザリガニの規制が始まりました！  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>



# もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名 (本の名前)	ちやしや ほん か ひと 著者 (本を書いた人)	しゅつぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
しん ぶ ちゆう し し きんせい しりょう へん ちゆう 新府中市史 近世資料 編 中	ぶ ちゆう し へん 府中市 / 編	2022	F213/10/㍶
ぶ ちゆう し し じょう だい ほん 府中市史 上 第3版	ぶ ちゆう し し へん いいんかい へん 府中市史編さん委員会 / 編	1979	F213/10/7
ぶ ちゆう し し さいはん ちゆう 府中市史[再版] 中	ぶ ちゆう し し へん いいんかい へん 府中市史編さん委員会 / 編	1979	F213/10/7
むさし ぶ ちゆう そうしよ 武蔵府中叢書 4 ぶ ちゆう ようすい 府中の用水	ぶ ちゆう し きかく ちゆうせい ぶ へん 府中市企画調整部 / 編	1976	F213/10/㍊
いしづみ ぞうし ろほう かに べ 路傍の語り部たち 改訂版	ぶ ちゆう し ぶんか ぶんか しんこうか へん 府中市文化スポーツ部文化振興課 / 編	2010	F29/1
ぶ ちゆう し ないきゆうめい ちゆう さ ほうこくしよ 府中市内旧名調査報告書 みち ぎか つか かわ せき はし なまえ 道・坂・塚・川・堰・橋の名前	ぶ ちゆう し きょういく いいんかい 府中市教育委員会	1985	F291.3/10/7
みどり さん ぼ 緑の散歩みち Walking Guidemap ばん みどり 【1990年版】緑のネットワーク	ぶ ちゆう し 府中市	1990	F462/10/ミ
ぶ ちゆう ようすい 府中用水 うつ ひと ます 移りゆく人と水とのかかわり	きょうと ぶんか かん へん くにたち 郷土文化館 / 編	2001	F614/10/7
しん た まがわし ほん べん じょう 新多摩川誌 本編 <上>	しん た まがわし へん しゅう いいんかい へん 新多摩川誌編集委員会 / 編	2001	FZ5517/㍶

## さんこう 参考にしたウェブサイト

① 知っていますか東京の農業用水 (東京都産業労働局 農林水産部)  
<https://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.lg.jp/nourin/pdf/kibann/5yousui/yousui-pamph.pdf>

② 東京都の水生物相の変遷 (公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所)  
<https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/wp-content/uploads/sites/5/2022/03/5d0ef61331a022bb56f64ed6fbb4713a.pdf>

※ホームページアドレスは令和6年3月時点のものです。

さがしている本が見つからない時は、  
図書館の人に聞いてみよう。



「府中の用水」こども府中はかせ No.14  
 2024年3月発行  
 府中市立図書館 編集・発行  
<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>

